こよみの神宮館

ジュニア書道コンクール'12

入賞作品決まる

展覧会
会期：3月24日(土)～27日(火)　午前10時～午後5時(最終日は午後4時)
会場：サンシャインシティワールドインポートマート4階A2
東京都豊島区東池袋3の1の3(☎03・3989・3486＝会期中)
入場料：無料

全国の幼年から高校生までを対象に募集した「産経ジュニア書道コンクール'12」(産経新聞社、産経国際書会主催、文部科学省など後援)は昨年を1000点以上も上回る6666点の応募があり、去る2月15日に開かれた審査会で文部科学大臣奨励賞をはじめとする各賞の受賞作品が決まった。

佳作以上の作品はA部門(半切4分の1、高校生は半切)とB部門(半紙)を合わせて約6500点に上り、3月24～27日に東京・池袋のサンシャインシティワールドインポートマート4階A2で開く展覧会で披露する。入場無料。詳しくは公式サイトwww.eventsankei.jpまたは事務局☎03・3275・8902まで。

文部科学大臣奨励賞

八戸市立根城中学校　木幡咲絵(青森)

東京都知事賞

西東京市立保谷第二小学校　安部友基(東京)

千葉県知事賞

松戸市立第四中学校　小笠原真紀(千葉)

神宮館賞

上尾市立上平中学校　日野真奈実(埼玉)

神宮館国際賞

陳聖中(台湾)

産経新聞社賞

志木市立志木小学校　徐涵如(埼玉)

産経新聞社賞

神奈川県立百合丘高等学校　佐竹志保(神奈川)

フジテレビジョン賞

群馬県立中央中等教育学校　山田季穂(群馬)

産経国際書会理事長賞

入間市立豊岡中学校　小美濃芽(埼玉)

審査委員(五十音順)
【特別審査員】井上象英(神宮館)
【顧問】島村谿堂
【審査委員長】尚橋照弘
【実行委員長】松本美娜
【審査委員】赤池渓舟、荒木峰泉、石川溪舟、泉芳秋、磯部花溪、大牛欣川、大谷芳雨、岡本杏華、小野左鵞、影山瑤琴、鴨田茜竹、小杉秀花、小林紫雲、今野美晁、酒井竹風、永田龍石、中村雪鷺、長谷川明扇、蓑口草川、宮平翠玲、向山芳川、室山陽園、山口千夏

●B部門の上位入賞者
【神宮館賞】草加市立高砂小学校・藤井涼太(埼玉)
【産経新聞社賞】越谷市立西中学校・渡辺琴音(埼玉)
【フジテレビジョン賞】栃木市立吹上小学校・伏木ひより(栃木)
【ニッポン放送賞】さいたま市立春野中学校・小山内孝実(埼玉)
【産経国際書会理事長賞】さいたま市立春里中学校・島倉舞(埼玉)
【国際友好賞】両角衿香(米国)、ドミニカ・シュナイデル(ポーランド)

ジュニア賞

●A部門
【北海道】斉藤有里
【山形】伊藤由樹
【千葉】木村貫、星野利佳
【埼玉】赤池紀佳、尾林佑亮、柏田茉衣子、小島未来、小松弥生、佐藤弘輝、鈴木等、砂川萌、中村朱里、平根凪紗、吉田優花
【東京】北田梨乃、多田美貴子
【神奈川】岩田奈美江、鈴木純菜、吉田夕真
【長野】片桐由梨佳、松本侑真
【石川】浅野颯汰
【大阪】加藤友来
【広島】佐藤汰、鶴田茉子、中村琉蠟、吉村愛実
【福岡】外園星
【青森】山本さゆり
【茨城】浅香里奈、小池美羽、齋藤留菜、吉岡歩理
【埼玉】相川美紀、宇都宮夕貴、榎本有沙、木村静花、栗田琴美、堰合美桜、山口菜奈
【東京】服部桃子
【神奈川】石巻湧弥、平野紗菜、松尾菜央、三浦紗瑛
【富山】河上慶之
【奈良】森田三鈴
【大阪】桑夢実
【岡山】小坂綾

いきいき賞

●A部門
【青森】石橋奈央子
【千葉】木村夏摘、橘夏実
【埼玉】赤池卓哉、岩田奈々葉、岡庭由依、福富月菜
【東京】小林海音、笹本羽奈、中村玲子、張秀妍、鄧欣悦
【神奈川】清水菜々子
【長野】鈴木そら
【大阪】加藤琴
●B部門
【茨城】鈴木良門
【群馬】山口遥花
【埼玉】愛智真行、上田祐輔、福原由利菜
【神奈川】盛美心
【富山】岡本空
【奈良】太田七海
【岡山】原田美咲

推薦賞

●A部門
【青森】高橋萌黄、田名部貴博、横町さとこ
【茨城】吉川千咲、福岡真帆
【千葉】中村明日香
【東京】伊藤春佳
【神奈川】佐々木奈央
【新潟】金子翠歩
●B部門
【青森】豊川聡子
【福島】外岡日南子
【茨城】仲見川彩奈
【群馬】野口真友美
【東京】矢崎花

(敬称略)

ジュニア大賞

指宿市立丹波小学校　柝冬馬(鹿児島)

埼玉県知事賞

新座市立新開小学校　栗本ひなた(埼玉)

神奈川県知事賞

川崎市立菅中学校　西山和真(神奈川)

神宮館賞

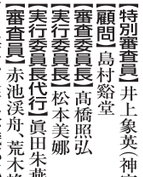
茨城県立水戸第二高等学校　柳田翔子(茨城)

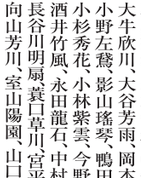
神宮館国際賞

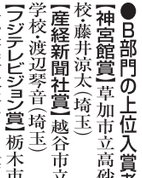
安田光沙(米国)

産経新聞社賞

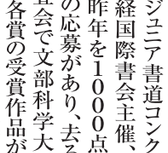
私立東洋高等学校　岩下瑶見(東京)

産経新聞社賞

青森県立八戸東高等学校　豊川聡子(青森)

ニッポン放送賞

富士吉田市立下吉田中学校　中村円香(山梨)

国際友好賞

曽文亭(台湾)

ごあいさつ


審査委員長
産経国際書会常務理事
髙橋照弘氏

「産経ジュニア書道コンクール'12」展を、ご後援ご協賛いただきました関係各位並びに、全国で書道を指導されている諸先生方の格別なるご理解とご協力を得て開催できますことを感謝申し上げます。

現在、筆をもって心を書き表す機会は極めて少なくなっています。電子文字の普及と少子化により、多くの人が書文化の将来に不安をもっているところです。

しかし、今回展は昨年を約1000点上回る多くの出品がありました。米国、ロシア、ポーランド、台湾、韓国、中国からも出品があり、書の文化が世界に広がり、愛されています。書を通して友好の輪をもち、つながってゆくことを期待しています。

生徒達は、書くことの喜び、楽しさを知り、頑張って書き上げた作品を発表します。次代を担う若い人達の展覧会です。どうぞ皆様お誘いあわせて会場に足を運んで下さるようお願いいたします。